

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
鈴鹿市	石薬師地区	令和2年12月2日	令和2年12月2日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	465ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	277ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	133ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	92ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	23ha
(備考) 本地区は、水稲生産をはじめとする水田地のほか、花木、花き、露地野菜等を生産する畑地が多く存在し、養鶏業が盛んである。	

2 対象地区の課題

中心経営体の高齢化が進み、後継者の確保も困難であることから、遊休農地の増加が懸念される。 分散・錯綜した農地利用なので作業効率が悪い。
--

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

離農が増加傾向にある畑地については、中心経営体が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れの促進とともに、高収益作物の導入等で中心経営体の安定経営を図り農業の継続を促す。
水田地については、中心経営体に農地の集積・集約化を進めることで作業効率を上げ、引き受け可能な農地の面積を増やす。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

農地の貸付け等の意向 貸付け等の意向が確認された農地は、 641筆 , 676,930㎡ となっている。
農地中間管理機構の活用方針 永年性作物を栽培する畑地では、集約化は困難であるが、経営規模を拡大する意向がある中心経営体には、農地中間管理機構の制度を活用し農地を集積し、遊休農地の発生を未然に防ぐよう努める。 水田地においては、農地中間管理事業を活用し、中心経営体への農地の集積・集約化を図る。